

4thAPNG Camp@Busan 報告書

佐藤有希 (ngtf, 一橋大学社会学部 4 年)

前回の台北における Camp に引き続き、2 回目の APNG Camp への参加となった。今回の Camp は、自らの ThinkQuest の経験を踏まえてインターネットによる社会的・教育的貢献の在り方について提言することと、次回以降の Camp につなげるためにも自分と似た関心を持つ参加者とコネクションことを目標に参加した。

主なコミットメント

- **Focus of Talkers**

”Changing the Society with the Internet”というタイトルで社会学的なパースペクティブからインターネットによって社会をどのように変化させることができるかということについて話した。主にマイノリティーのエンパワメント、E デモクラシー、メディアリテラシーに焦点を当てて話した。メディアリテラシーの部分では、自らも参加した ThinkQuest の試みを紹介しながら、国際大会が再開することについても触れた。

- **Feminism Working Group**

前回の Camp でも、同ワーキンググループには参加していたが、ワーキンググループとして今後も続けるべきか、続けるとしたらどのような問題意識を持って進めるべきかについて話し合った。話し合いを引っ張り、結論を出すにあたって貢献出来たと思う。

- **Education Working Group**

「インターネットと教育」というタイトルでワーキンググループを作ろうと思い、同じような問題意識を持つ参加者と共に、今後の APNG Camp における活動の方向性について話し合う。具体的に今後どのようにワーキンググループとして進めていくべきかについてはまとめることはできなかったが、”ThinkQuest Workshop@AP”などの案も出たので、それらの案を何らかの形で今後活かすべく模索中である。

今回の Camp の成果と今後の課題

- 各参加者の問題関心の共有が図られたことと、これまでの Camp の反省に基づき Camp の在り方に関して各参加者が率直な意見を交換しあえたこと、その上で次回以降の Camp は基本的にワーキンググループをベースに開催される方向に移行したことは大きな成果である。
- しかしながら、一部のワーキンググループでは国の偏りがあり、必ずしも AP ではなかったという側面もある。これは、今後の各ワーキンググループの活動と Camp の運営次第であるが、次回以降の Camp のためにも各ワーキンググループが AP という舞台で何を目指して活動していくのか、方向性を明確にすることとそれを共有しあう必要があるだろう。